

令和３年度第２回秋田県地域公共交通活性化協議会の概要

日 時 令和３年１０月２６日（火） 午後１時３０分～午後３時００分
場 所 各委員の職場・自宅等からのリモート開催
参 集 委員２４名中１６名参加（８名については後日書面協議）

【概 要】

１ 開 会

委員２４名中代理を含む１６名が参加し、残り８名についても後日の書面協議について承諾があり会議が成立

２ あいさつ

小松・県交通政策課長があいさつ
小松課長が議長代理として議事進行

３ 説明事項

- （１）秋田県地域公共交通計画の構成（案）について
資料１に基づき、事務局が説明

《質疑等》

議長

これについてコメント等あるか。（なしとの反応）

- （２）秋田県地域公共交通計画に係る各種調査の実施状況について
資料２に基づき、事務局が説明

《質疑等》

議長

高校アンケート調査についてコメント等あるか。

玉田委員（秋田運輸支局）

高校生の通学手段のうち「保護者の送迎」の割合が高く驚いている。特に平鹿・雄勝圏域が顕著だが、なぜ保護者が送迎しなければならないのか理由を掘り下げて、どうしたら公共交通を利用してもらえるのか、探っていく必要があると思う。保護者の送迎からバス利用などに切り替えてもらうことができると考えれば、公共交通利用の伸びしろはまだあるように感じる。

第１回目の会議でも発言したが、皆が乗らないと公共交通はなくなってしまうということを認識してもらうことも大切である。

議長

高校や生徒へのPRを通じた需要の掘り起こしについては、実施体制等を含めて、計画に取組の一つとして位置づけられればと考えている。

森田委員（横手市経営企画課）

公共交通の利用促進を図る上でも、知事部局から教育委員会に対しての働きかけが必要ではないか。

事務局

県教育庁の高校教育課とも高校アンケート調査結果の情報を共有しており、今後の利用促進に当たっても連携を図ってまいりたい。

齋藤委員（秋田県バス協会、秋田県観光連盟、羽後交通）

アンケート結果から、平鹿・雄勝圏域での保護者の送迎が特に多いことが分かったが、実際もそのとおりだと感じている。

ただし、以前に比べて通学時のバスの使い勝手が悪くなっている訳ではなく、保護者の意識が変わったことが大きな原因だと考えている。

高校としても、周辺住民から送迎の車による学校周辺の渋滞について苦情が寄せられていることから、生徒への呼びかけは行っているようだが、送迎は減らないようだ。

以前は、雨の日はバス利用が大幅に増えたものだが、最近は、バス停まで歩くのが嫌で、親も子供が可愛いので学校まで送迎する、ということでバスの利用が増えることはない。交通事業者の努力だけでは、送迎からバス利用に切り替えさせるのは難しいと感じている。

萱場委員（由利高原鉄道）

由利高原鉄道沿線でも保護者の送迎が多く、公共交通の利用を呼びかけても、家庭の経済的な負担もあり、なかなか難しいと感じていたが、学校へのPRを通じて、登下校に公共交通を利用する教育上の意義を認識していただき後押しをいただけた。

保護者も、経済的な負担が少なければ、公共交通を利用させたいと考えているのではないかと。そういった意味でも、玉田委員の視点は大変重要だと考える。

議長

高校生の需要の掘り起こしについて、こういったやり方が良いのかも含めて具体策を考えたいと考えている。

ほかにコメント等ないか。（なしとの反応）

次に、市町村アンケート調査について、今回お示しした課題や論点等に関し

てご意見等はないか。秋田市、横手市はどうか。（なしとの反応）

市町村から県に要望が最も多かった「勉強会の開催」について、事務局には、各市町村が求める情報等について、要望の掘り下げを行ってほしい。

交通事業者ヒアリング調査について、交通事業者から強調したい点や補足等があればいただきたい。秋田内陸縦貫鉄道はどうか。

吉田委員（秋田内陸縦貫鉄道）

調査から導き出される課題として、「国、県、市町村からの引き続きの支援継続と、より地域によって望ましい、実情に即した支援のあり方を追求する必要」との記載があるが、支援のあり方については今後も継続して議論をしていただきたい。

議長

ほかはないか。

玉田委員（秋田運輸支局）

運転手などの担い手不足は、バス、タクシー、鉄道のみならず、トラックも含めた運輸・自動車業界全体の深刻な問題である。

運輸支局でも高校を訪問し、校長先生にもお願いしているものの、成果は上がっていない。高校側の運輸業界の人材不足に対する捉え方が若干弱いように思う。公共交通の利用促進と併せて、教育委員会や学校と連携して担い手不足に取り組んでいただければありがたい。

議長

担い手不足については、主に運輸支局やバス協会などが学校訪問なども含めて取り組んできたと思うが、データの深掘りや計画への書きぶりなど今後個別にご相談したいと考える。

ほかはないか。（なしとの反応）

全体を通じてコメント等はないか。利用者代表として参加いただいている秋田県身体障害者福祉協会の伊藤委員はどうか。

伊藤委員（秋田県身体障害者福祉協会）

特にない。

議長

日野委員はここまででコメント等あるか。

日野委員（秋田大学大学院理工学研究科）

市町村から県への要望として、「バス事業者との協議の場の設定」が想像より

多いことに興味を持った。具体的にどのような協議を想定しているのか、県にどのような役割を求めているのかなどの掘り下げがないと、具体策が見えてこないのではないかな。

高校アンケート調査について、平鹿・雄勝圏域では「保護者の送迎」の割合が高く、冬季になっても公共交通の利用が増えていないように見える。徒歩・自転車利用の生徒が、冬期間になると公共交通利用ではなく、保護者の送迎に切り替わっているように見える。他の地域も含めて、夏季と冬季での利用実態の変化や、冬季に公共交通利用へシフトした生徒の冬季以外の交通手段などについて分析できれば、高校生の通学手段の傾向がより詳しく説明できるのではないかな。

事務局

高校アンケートについては、できる限り深掘りして分析していきたい。

なお、平鹿・雄勝圏域のアンケート結果については、同圏域の高校からの未回答が多く、実際の通学実態を十分に反映できていないと思われる。他圏域も含めて、未回答の高校へ改めて回答をお願いしており、分析の精度が高まるよう務めたい。

(3) 秋田県の地域公共交通の課題と施策の方向性について

資料3～5に基づき、事務局が説明

《質疑等》

議長

施策の方向性や施策（案）についてコメント等あるか。

森田委員（横手市経営企画課）

施策の方向性について、公共交通にとって一番重要なのは安全・安心な運行だと思うが、公共交通の利用拡大という観点から、移動需要以外の方の取り込み、つまり乗ること自体に価値を見いだすといった視点も必要ではないかな。

法規制等のハードル等はあるだろうが、例えばバスに乗ったら漫画が読めるというようなことが実現すれば、新たな利用の掘り起こしが期待できるのではないかな。

議長

移動するだけということではなく、乗車自体に付加価値を付けて、需要の掘り起こしができないかという視点については、計画に盛り込めないか検討してまいりたい。事務局には、三セク鉄道が運行しているイベント列車やレストラン列車のような取組も踏まえながら考えてほしい。

公共交通計画では、まちづくりや観光との連携を基本方針に位置づけている

が、まちづくりの観点で県都市計画課からご意見等ないか。

伊勢委員（県都市計画課）

各市町村では、将来的にそれぞれの地域の中心拠点や生活拠点をどうしていくかを考えながらまちづくりを進めているが、将来の地域公共交通のあり方と密接な関係にあることから、まちづくり担当部局ともよく意見交換を行いながら進めていただきたい。

齋藤委員（秋田県バス協会、秋田県観光連盟、羽後交通）

※システムの不具合によりやりとりできず。

議長

各地域部会に、各市町村のまちづくり担当部局や観光担当部局は参加してはいないものの、各市町村内部で共有、照会等していただき、まちづくりや観光などの観点からのご指摘があれば是非いただきたい。

日野委員（秋田大学大学院理工学研究科）

資料5「公共交通の課題解決に向けた施策の候補」について、小項目「人口当たりの利用者数の維持」のように、本来は指標であるべきものが施策として提示されていたり、大項目「地域公共交通ネットワークの維持・確保」のように、さまざま取り組んだ結果のあるべき姿を施策として記載しているものが見受けられるので、再考いただきたい。

議長

ご指摘のとおり、本来は指標とすべきものが混在しているので、事務局でもう一度整理してもらいたい。

4 その他
特になし

5 閉 会